



第3回災害支援報告

8月6~8日、日本ユニバ震災対策チームの協力のもと気仙沼市大島にて医療支援、眼科検診を行いました。5、6月に続き3回目となり、医師、看護師、視能訓練士、眼鏡加工士の4人で、診察とともに点眼薬、眼鏡、コンタクトレンズ等の配布を行いました。

震災から5ヵ月近くが経ち、気仙沼港付近ではガレキなどは整理され、漁港も再開されていましたが、ひどい悪臭がし、損壊した建物がそのまま復興にはまだ時間がかかるという印象でした。

今回は日本ユニバ震災対策チームで事前に全島へチラシを配布されていたため、初日は89人、2日目は150人、3日目は125人と3日間で364人の島民が受診されました。

また、今回はポータブルレフラクトメータを用いて他覚的屈折値の測定、視力低下の訴えや眼鏡処方を希望される人にはほぼ全員に屈折矯正を行いました。そのため検査に時間がかかり、視力、眼鏡処方がかかり混雑しました。

3日間とも、猛暑の中、昼食、休憩をとらず活動しましたが、高齢者が多く、もともと島に眼科がないせいもあり、眼科に通院されている人が少なく、眼鏡を使用していない人も多く見られました。前回までの口コミも広がり、眼鏡処方を希望される方が多く、3日間で140本程の眼鏡を配布しました。今回は他覚的屈折値をもとに屈折

矯正を行い、より質の高い検査、処方のできたのではないかと思います。

疾患別では、白内障が一番多く、次に翼状片・ドライアイ・眼精疲労が続くといった状況で、住んでいる環境によるのか都内だと手術を希望される段階またはそれ以上の白内障を罹患している患者さまが眼鏡で少しだけ視力があがっただけでも見え方に満足して帰られることに驚かされました。

島の状況は、災害対策本部長によると、復興にはまだまだ時間がかかりそうだが、7月末には仮設住宅が完成し、避難されている人はほとんどいなくなったそうです。また、市立病院が再開し、9月には最寄りの眼科が再開される予定があり、住宅、医療機関等、復興は少しずつでも着実に進んでおり、人々の笑顔も少しずつ増えてきているとのことでした。

2日目の昼、「生きる希望を貰った」と感謝される人がいたと、日本ユニバ震災対策チームの現地スタッフからお話を聞きました。71歳の女性で、震災でご主人様を亡くしずっと絶望感しかなかった方が、診察の事を聞き、「処方してもらった眼鏡で待ち時間に読もうと持ってきた本の文字が綺麗に読め、とても嬉しく、その事が生きる希望となりました」と、何度もお礼を言われたとのことでした。猛暑で混雑し、余裕のない中での活動になってしまい、受診した島民ひとりひとり満足される活動になれたか心配でした

が、ひとりでもそのような言葉をいただき、とても嬉しく思い、その後の活動の励みになりました。

患者さまを満足させることは、私たちチームが、患者さまが何に困っていてそれにはどのようにすれば良いのかそれぞれがそれぞれの立場で考えて実行する、このような当たり前のことを再認識させられました。支援に行った立場ですが、多くのものを現地の人や支援中の現場からもらった気がします。また、この経験を今後、病院での診察治療に活かさねばならないと思います。

最後に私たちの支援によって少しでも早く笑顔を取り戻せる助けとなったことを願い、そして一日も早い復興を祈っています。



井上眼科だより

INOUE GANKA DAYORI



「ストレス」

井上眼科病院 副院長 岡山 良子

猛暑、節電と叫ばれながらも暦のうへでは秋になってしまいました。

そして、あの東日本大震災から7ヵ月が経過しました。震災後、当院からも災害支援チームを現地に派遣いたしました。気仙沼湾に浮かぶ人口3,200人の大島で、3回の派遣を行いました。派遣メンバーも現地の惨状には心を痛めていましたが、そのなかで多少ともお役に立てたのであれば幸いです。今までの生活基盤をすべて破壊され、それをまた一から再建復興していくには相当のエネルギーを要するでしょう。家族を失ったストレス、経済的なストレス、新しい人間関係のストレス、何度も心が折れそうになるでしょう。今後は物質面以上にこのようなストレスを抱えた方への精神

面の支援の必要性を派遣した支援チームもひしひしと感じたそうです。

普通に暮らしている私たちでさえも様々なストレスに向き合っています。もとこの「ストレス」というのは物理学的に物体に外側から力が加わって物体に生じたひずみのことで、そのため心にひずみを生じさせるような外的刺激をストレスと呼ぶようになったそうです。複雑な社会組織、希薄な人間関係、余裕のない空間、まさにストレス社会です。ストレスがあまりに大きいと病気になってしまいます。その前に上手く解消することが必要ですが、精神科の本にセルフケアについてあり

● 心配や不安を話したくなったら 聞いてほしい人にきいてもらう

● 泣きたくなったら泣く (涙は角膜の保護だけでなく、ストレスもあらい流してくれそうです)

● 体操などして体を動かす
● とにかく眠る

以前と比べ日常診療においてもそういう方を多くみかけるようになった印象があります。若倉院長の著書『目の異常、そのとき』にも書かれていますが、眼科本来の疾患というよりもストレスのあらわれとして眼に様々な症状が出てくる場合があります。型どおりの診察ではなかなかわかりにくく、時間をかけたきめ細かい診療が必要です。私どもはできる限り患者様の気持ちに寄りそえる医療を実践していきたいとおもっています。

Information

～若倉雅登院長 公開講座のお知らせ～

「健康は眼にきけ」

眼をみれば、人の心身の叫びが聞こえてくる。その時いったいどうすればいいのか、35年間の臨床経験から伝授いたします。

講師：井上眼科病院 院長 若倉雅登

日時：2011年11月5日(土) 13:00~14:30

受講料：会員(朝日カルチャーセンター朝日JTB・交流文化塾) 2,940円(税込)
一般 3,570円(税込)

会場：東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル4階 朝日カルチャーセンター

お問い合わせ先：朝日カルチャーセンター朝日JTB・交流文化塾 新宿教室

電話 03-3344-1941(平日9:30~19:00、土曜日9:30~18:30)

<http://www.asahiculture-shinjuku.com/>



朝日カルチャーセンター
朝日JTB・交流文化塾 新宿



平成22年患者さま満足度調査のご報告

接遇委員会

お茶の水・井上眼科クリニックでは、当院の基本理念である「患者さま第一主義」がどの程度まで実践されているかを知るために、毎年秋に、外来患者さまのご協力の下、患者さま満足度調査を行っております。震災の影響等でご報告が遅れましたが、この3年間の調査比較なども含めてご報告いたします。

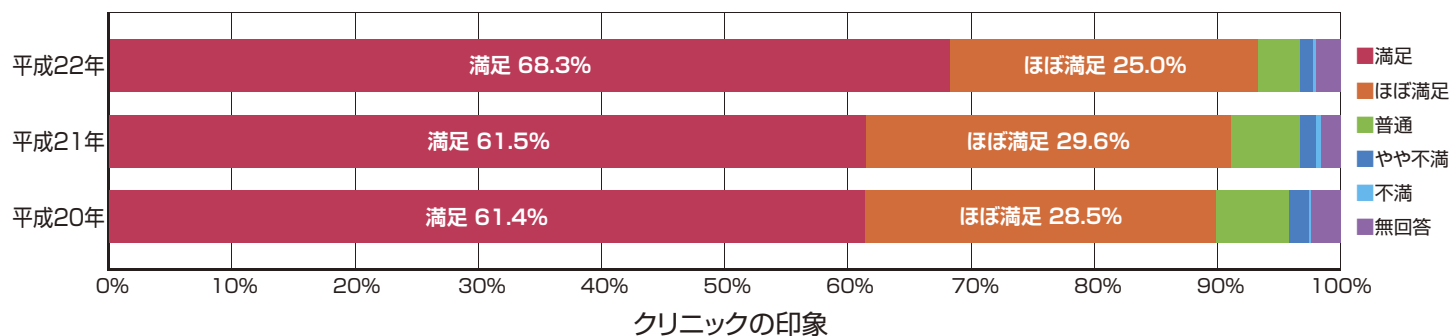
- 1 **調査施設** お茶の水・井上眼科クリニック
- 2 **調査期間** 平成22年10月1日～11月6日
- 3 **調査方法・対象**
調査員が無作為抽出した外来患者さまご本人及び患者さまのご家族、お付き添いの方
- 4 **有効回答数** (一日のおおよその平均来院患者数を目標に収集)
1017名

- 5 **アンケート内容 (昨年と共通)**
 - 質問1 医師について (5段階評価)
 - 質問2 医師以外の職員について (5段階評価)
 - 質問3 クリニックの印象 (5段階評価)
 - 質問4 患者さまご自身について (選択記載)
 - 質問5 当院へ知人を紹介したいか? (選択記載)
 - その他 自由記載

調査結果について

全体としては、各項目とも「満足」「ほぼ満足」を合わせると、概ね80%以上の方に高い評価をいただくことが出来ました。質問3では、クリニックの総合的な印象を質問していますが、平成22年では、695名(68.3%)の方から「満足」の評価をいただき、「満足」「ほぼ満足」を合わせると、949名(93.3%)の方から、支持をいただくことが出来ました。

平成20年からの調査で「満足」「ほぼ満足」と評価していただける方の割合は89.9%、平成21年では91.1%でしたので、僅かではありますが増加しているという結果がいただけました(グラフ)。しかし、自由記載欄では、「待ち時間が長い」とするご意見が106件(10.4%)と、今回も「待ち時間」についてのお叱りをたくさんいただきました。



●予約時間と、待ち時間への当院の取組み

当院の予約時間については、以前からご案内しております通り、「来院時間のお約束」とさせていただいており、予約の時間帯の間に診察が終了することをお約束するものではありません。臨床では、検査や説明、処置などに時間を要する患者さまが偶然重なるなど、予期しえない事態が出現するため、日によって待ち時間の変動はある程度やむを得ません。引き続き、ご理解、ご協力いただきたく、お知らせいたします。待ち時間については、現在、当院へ受診を希望される患者さまが大変多く、ご希望の日時では予約が難しくなっており、それに対し出来る限り早期に来院していただけるようにする必要もあるため、一定時間内にお受けする予約数を多くせざるを得ないことから、在院時間が長くなる傾向にあります。

眼科では、他科に比べ検査も多く、必要があれば検査が避けられないこと、所要時間も患者さまの年齢や病状などにより変動が大きく、ここでも在院時間が増大して行きます。これらの問題については、当院では重点的に対策を行うため、理事長以下に関連部署の責任者からなる「予約・診療枠・待ち時間検討会」という、常設の委員会組織を設置し、月一回を基本として諸問題解決のための活動を続けております。相反する課題も多く、直ちに解決が難しい問題ではありますが、待ち時間の減少に向けて、取組んで行く所存です。今後も、患者さまのご理解とご協力のもと、より良いクリニック運営を目指し、職員一同、鋭意努力してまいります。



開設20周年を迎えた西葛西・井上眼科病院



西葛西・井上眼科病院院長 宮永 嘉隆

平成3年11月18日、地域医療に貢献する、そして眼科手術のセンター的役割を果たすことを目指して当院は開設しました。爾来、地域社会の発展と共に歩み、手術においても最先端の手術を行う病院として全国でも屈指の病院の評価を得るようになりました。

今、20周年を迎えるにあたりその歴史を振り返ると共に、さらに、今後、我々の病院に与えられた使命は何なのか、この節目にあたって考えてみたいと思います。

当病院はお茶の水にあります井上眼科病院グループの分院、即ち一施設であります。その歴史を繙くと、すでに昭和63年頃に遡ります。当時、東京のベッドタウン的存在として新興して来たこの地において、住民の目の健康を守って行こうと云う理念のもとに小さな診療所を開設したことに始まります。一方で当時から目覚ましい発展を遂げつつある眼科手術領域でもセンター的役割を果たそうと云う考えがありました。この二つの機能を合わせ持つ新病院を発展を続けるこの地、西葛西に新しく建設しようとするミッションがあり、その努力が結実して出来たのが平成3年の現

病院であります。あれから20年、病院にもいろいろな社会の波が押し寄せました。この地域では、土曜日の診療は疎かに出来ないこと、住民には今の我国を支える若い世代が多くあり、さらにこれからの日本の発展を担って行くであろう子供達も多くいる地域の特殊性を生かした診療を行っていく。そして「患者さま第一主義」の理念をつらぬこうと職員一人一人が努力をし、その力を結集したことで今の病院があります。こども眼科クリニックも開設しました。こどもクリニックは年毎に患者さまが増加し、今は近隣の地域からも多くの方が来られます。そして、メガネ、コンタクトレンズを中心とした眼科クリニックは、今の日本を支えている人達の視力を守るクリニックとして発展しています。病院では重症な眼疾患の方々にも対応出来るよう、各々の専門外来があります。そして今年からは、最先端の角膜移植手術も出来るようになり、眼科手術においては殆どすべての面に対応出来、良い結果を残せるようになりました。

20周年のこの年、忘れられない3月11日の東日本大地震です。日本にとっても戦後初めての試練の時です。そして私共の病院にとっても今後に向う節目の年と云えましょう。今度の震災は私達職員や病院にとっては実害はありませんでしたが、多くのことを考えさせられました。改めて心をしっかり持たなくてはならないことを教えられた震災でした。これからは、さらに心一つにして医の原点に立ち帰って病める方々に寄り添うような診療を目指して行こうと思うこの頃です。

平成3年 (1991年) 11月	「西葛西・井上眼科病院」開設(病床数21床)
平成6年 (1994年) 6月	病床数32床にて運営開始
平成12年(2000年) 4月	宮永嘉隆院長就任
平成15年(2003年)	「関東版患者9万人アンケート患者が決めた!いい病院全1502病院ランキング」で第6位に選出
平成16年(2004年) 12月	「西葛西井上眼科こどもクリニック」、「西葛西井上眼科クリニック」開設
平成18年(2006年) 10月	財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価の認定を取得
平成22年(2010年) 1月	西葛西井上眼科クリニックにてオルソケラトロジーの取り扱い開始
平成22年(2010年)	「手術数でわかるいい病院全国&地方別ランキング」の網膜硝子体手術部門で全国第26位に選出
平成23年(2011年) 11月	開設20周年を迎える



西葛西・井上眼科病院



西葛西井上眼科こどもクリニック



西葛西井上眼科クリニック